しんらん同人

No.586
5・6月号

浄土真宗本願寺派　誓願寺
〒171-0052　東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828　【ホームページ】http://www.seiganji-tokyo.jp/

【 3・4月にお越しいただいた先生方 】

永代経法要

5月25日(日) 午後1時より

（場所・誓願寺）

5月25日 誓願寺にて永代経法要を執り行います。ご講師には西原龍哉師にお越しいただきます。お誘いあわせの上お参りください。

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職　古賀尚之

仏教は、お釈迦様が自分の思うようにならない人生・四苦八苦のこの世を、どの様に生き抜けば良いのかという問いを求めて修行の旅に出られ、悟りを得られた内容を、「諸行無常・諸法無我・涅槃寂静の三法印」や「四諦八正道」等で私達にお示しくださった思想であります。少し乱暴に言うならば、ほどほどにそして精一杯中道を進むことであります。

日本のみならず、最近の世界を見ますと、様々な考え方や生き方を、自分が思う方向にだけに進めようとしているように思えます。

自分が一番大切。自国が一番大切。善行や徳は偽善として排除し、自分にとっての真実を追求する。自分に正直に生きる。それのどこが悪いのかという主張が大手を振ってまかり通っているように思います。

これは、自分一人だけで生きていかねばならなくなった世界での考え方であり、多様な価値観を持った多くの人々と共に生きてゆかなければならない世界での考え方・生き方ではありません。個人の尊重とは、他者の人権を保障することであり、お互いを否定し合うものではありません。

この世のことを仏教用語では「十方衆生」といいそこには当然のこととして「男女・老若・善悪・賢愚・貧富・道俗等」の様々な差別ではなく区別も生まれてまいります。

お釈迦様がたどり着かれた仏教を本源とする大乗仏教は、「慈」自分の幸せを無償で他の者に恵み、他者の幸せを実現することを自分の慶びとする心と行いをいい、「悲」他者を悲しませることなく、悲しみに苦悩する者に寄り添い、ともに乗り越えていこうとする志と行動を言います。

仏教者として初心に帰って皆さまと歩んでまいりたいと痛感している次第です。

合掌

前号では「歎異抄」全十八条のなかの第三条を掲載しました。
今号では第二条を掲載いたします。お時間のある時に是非「原文と訳文」を【声に出して】読んでみてください。

第二条

一　おのおのの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御こころざし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり。しかるに念仏よりほかに往生のみちをも存知し、また法文等をもしりたるらんと、こころにくくおぼしめしておわしましてはんべらんは、おおきなるあやまりなり。もししからば、南都北嶺にも、ゆゆしき学生たちおおく座せられてそうろうなれば、かのひとにもあいたてまつりて、往生の要よくよくきかるべきなり。親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひとのおおせをかぶりて、信ずるほかに別の子細なきなり。念仏は、まことに浄土にうまるるたねにてやはんべらん、また、地獄におつべき業にてやはんべるらん。総じてもって存知せざるなり。たとい、法然聖人にすかされまいらせて、念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずそうろう。そのゆえは、自余の行もはげみて、仏になるべかりける身が、念仏をもうして、地獄にもおちてそうらわばこそ、すかされたてまつりて、という後悔もそうらわめ。いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし。弥陀の本願まことにおわしまさば、釈尊の説教、虚言なるべからず。仏説まことにおわしまさば、善導の御釈、虚言したまうべからず。善導の御釈まことならば、法然のおおせそらごとならんや。法然のおおせまことならば、親鸞がもうすむね、またもって、むなしかるべからずそうろうか。詮ずるところ、愚身の信心におきてはかくのごとし。このうえは、念仏をとりて信じたてまつらんとも、またすてんとも、面々の御はからいなりと云々

ひとつ　あなた方がはるばる関東から京都まで十余ケ国を通って、
命懸けで私を訪ねておいでになったのは何のためかといえば、
ただひとつ往生極楽の道を問い尋ねるためでありましょう。
しかしながら、この私が念仏より他に別の往生の道を知っているのではないか、
また経典等の言葉も知っているに違いない、
どうして教えてくれないのか、と思っておられるのならば、
それはとんでもない心得違いです。
もし念仏以外の道をお尋ねになりたいのなら、奈良の諸大寺や比叡山に、優れた学者が大勢おいでになることですから、
その人達にお会いになって、
親鸞においては、「ひたすら念仏しよき師法然房源空聖人の仰せを被って、阿弥陀如来にたすけて頂きなさい」という、
信ずるよりほかに、別の道など全く知りません。
念仏は、本当に浄土に生まれる原因
ひょっとすれば地獄行の原因となる行為ではないのかと
全くもって存じません。
もしも、法然聖人にだまされて、
念仏して地獄に堕ちても、少しも後悔しません。
なぜならば、念仏以外の仏道修行に励んで、仏に成るはずであった身が、
念仏を申したばかりに、地獄に堕ちたというならば、
だまされた、
という後悔もあることでしょう。
私はいかなる仏道修行も成し遂げられない身ですから、
初めから地獄こそが定められた住家なのです。
阿弥陀如来の本願が真実であるなら、釈尊の説かれた教えが虚言であるはずがありません。
釈尊のお説きになった教えが真実ならば、善導大師の御解釈が虚言であるはずがありません。
善導大師の御解釈が真実ならば、法然聖人のお言葉がどうして嘘でありましょう。
法然聖人の仰せが真実ならば、この親鸞が申すことも、また偽りではないのではありますまいか。
つづまるところ、愚かな身を生きる私の信じるところは、これで全てです。
さてこれだけ申し上げたうえで、念仏を信じなさろうとも、またお捨てになろうと、それはあなたがたお一人お一人が決断なさることです。」と、
このように、親鸞聖人からお聞きしました。

平生業成。いま光の中にある

誓願寺 初代住職 故 岡本泰雄

南無阿弥陀仏のいわれをよくよく聞いて、如来の願いが、煩悩に満たされている私を救わずにはおかぬとの願いであり、南無阿弥陀仏は、間違いなく救われている証拠であったと知らされてみれば、この身このまま救いのみ手の中で、何という幸せ者であったかと慶ばずにはおられません。

われも光のうちにありと気づかせて頂いたということは、如来のまことが私の内に至り届いて下さったからであります。

如来のまことが私の心の中に入り、み光につつまれた身であるからには、臨終を案ずることはありません。出来ることなら安心な最後でありたいとは思いますが、どんな業を担っているかわからず、苦しみながらいくか、安らかにいけるか、全く分かりませんが、どんな業を持っていようとも、お慈悲の中なのですから、命終ればそのままお浄土に参らせていただくことであります。

「臨終に仏のお迎えを頂きたいと思うのは、自分の力でお浄土に生まれようと思っている人たちである。如来の本願を信ずる人は、光におさめとられており、往生に間違いない身にして頂いているのであるから、臨終の良し悪しを考えることもいらないし、改めて仏のお迎えを期待することもない。信心が定まる時に往生も定まるのである。」と、祖聖は仰せになり、蓮如上人も「されば信を得たる位を経るには、即得往生住不退転と説き。釈には一念発起入正定之聚ともいえり。これすなはち不来迎の談、平生業成の義なり。」と仰せられました。

「平生業生」は、浄土真宗の特色であります。平生に浄土に往生する業因が出来上がるということであります。

自分の智慧や力で往生を願う人たちは、自分の行業を往生の因とするのですから、臨終業成を願うのでありますが、念仏往生の人は、南無阿弥陀仏の名号をもって業因とするので、平生・臨終を問わず、その名号を領受した時、往生の業因が出来上がるので、平生業成といわれるのであります。

平生業成と知らされると、誠に気楽であります。死んだらどうなるかな、死ぬときはどうなるかという心配は全くありません。死んでゆくのではなく、必ずお浄土に生まれ往く身にして頂いているということは、今の慶びであります。

これから先の日ぐらしは、幸なのか不幸なのか知らないが、どちらになってもよろしいと、確かな覚悟が出来ました。

合掌

ご法座等のご案内

どなたでもご自由にご参加いただけます。
参加費は無料です。

5月

5・11（日）
■午前十時～
定例法座
【若林唯人師（大阪府）】
■正午～
医療相談
【佐藤公彦医師】

5・18（日）
■午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

5・25（日）
■午後一時～
永代経法要・祥月命日合同法要
【西原龍哉師（千葉県）】

6月

6・8（日）
■午前十時～
定例法座
【上野隆平師（京都府）】
■正午～
医療相談
【佐藤公彦医師】

6・15（日）
■午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

6・22（日）
■午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要
【中西昌弘師（大阪府）】

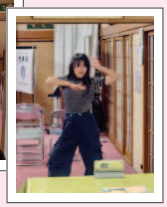
編集後記

・本号は私自身の体調不良により、お届けが遅れてしまいましたが、おかげさまで、天岸浄圓師の「宗教のトリセツ」行信教校・一味出版を読むことが出来ました。人生はつらいことや苦しい時もありますが、そこから多くのことを学べられると思いました。

・戦後八十年を迎えます。各地で多くの法要や今の日本・世界を考えるイベントが開催されます。終戦直後の十月に満州から引き上げる途中の中国・安東市で生まれた私も八十歳。もう少し頑張れるかもしれません、頑張ってみましょう。

一番上の孫が企画して金婚式のお祝いをしてくれました

〔6歳による乾杯の音頭〕


〔ひとりひとつ出し物をしました〕

〔花束贈呈〕

〔記念のケーキ〕

〔最後は集合写真の撮影〕

〔カラオケ大会もしました〕